

文 化

太平洋協會民族部長 平野義太郎

1. わが文化政策の基調
2. 各民族の特殊性を認識すべし
ジャワ人
ミナハサ人及び軍夫に適する民
族
3. 熱帯民族の労働心理的特性
統一性なき複合文化
フィリッピン、ジャワ、ビルマ
4. 民族文化政策の基本的問題
従前の統治國の文化政策
日本の民族政策
5. 日本の文化政策
日本の科擧、技術
經濟の多様化、經營の多角化、工業化
6. 藝術部門
華僑
團結・自治
かれらの教育のやり方
7. 華僑對策の要諦
混血兒の問題

1. わが文化政策の基調

今日、文化についてまづ第一に問題になりますことは、南方圏の統治・行政のため、又、経済的に原住民を積極的に協力せしめるために、原住民の文化程度をあるがままに観察してこれを具體的に善導するには如何にすべきか。そこで原住民の民族文化を指導すべき日本人は、まづかれらの民族文化をよく理解して、戦力増強に進んで協力するやうにせねばならぬ。さうして又いかにして、わが日本文化をかれらの生活面に滲透させてゆくべきか——文化政策のかやうな問題を吾々は充分考へぬいてゆかなければならない。

要するに各民族をして、各々その能に應じ分に從つてその處を得しめる根本方針を文化に即してここに考へてゆきたいと思ふ。

従來は南方域の諸民族を十把一からげにし、且つ又その文化が極めて原始未開であるといふやう

な誤解を日本人が持つて居つた。以前はちきに執帯における自然人、原始未開人といふ風に一括りに南洋原住民といふやうに解して居つた向が決してないでもなかつたのである。けれども、之は甚しき認識不足で戦争開始後直に改められたと思ふのでありますが、ジャワに住んで居りますジャワ族の如きは既に千年、千五百年の文化を持つて居ります上に、インドウの文化を輸入し、更に回教のイスラムの文化を入れこみ、更に後には統治國としてのオランダから西洋文明を押しつけられて影響を受けた。これらの外來の文化は表面的で天ぶらにすぎないとはいへ、そこに一種の文化が成立してゐる。

しかるに、インドネシア人の魂の奥底、生活の中身には矢張りインドネシア固有の民族信仰に結び付いた宗教文化、東洋の郷土意識、家族制度を持つて居り、東洋社會經濟の根柢には特異な稲作文化に基く郷村の相互扶助もあれば東洋の宗教意識、目上の者に對する尊敬、目下の者に對する仁愛もある。だから東洋文化の純粹を發展させた日本は、かれらの心の中に潜在する、かかる東洋道徳・宗教を眼醒まし指導してゆかねばならぬのである。

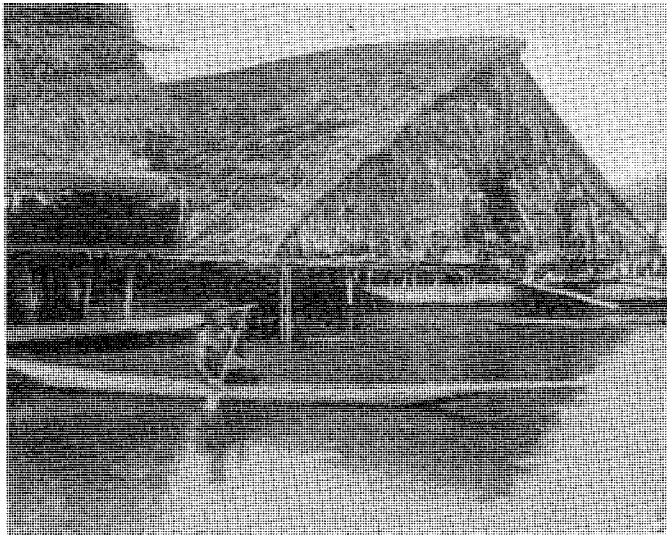
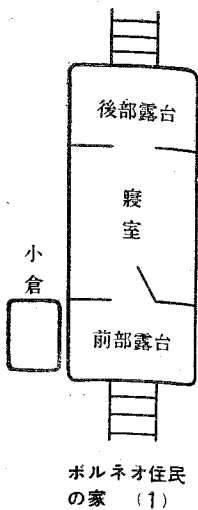
2. 各民族の特殊性を認識すべし

さて、同じく東洋文化においても、従來はインドウの、例へば技術について申しまして、鐵を鍛へる文化の如きは印度から入つて居ります。或は又、永田の耕作技術の如きは、支那に近ければ近いほど、安南やカンボチャや北ボルネオであればあるほど華僑移民の混血も手傳つて漢文化の影響を受けて居る。泰には支那文化と印度文化との兩方が半々に入つてゐるといふ具合に、インドネシアにおいても、農業の技術だけを取つて見ましても、インドウの文化或は支那の漢文化の影響をも充分に採り入れて發達して來て居りました。

ジャワ人 殊にジャワ人についていふと、織布はジャワ更紗を織るだけの技術を心得てゐる。さらに近代になればゴム園の苦力になり砂糖工場で働き、進んでは石油の採油や精油工場の勞働者に

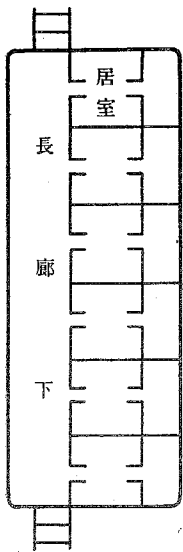
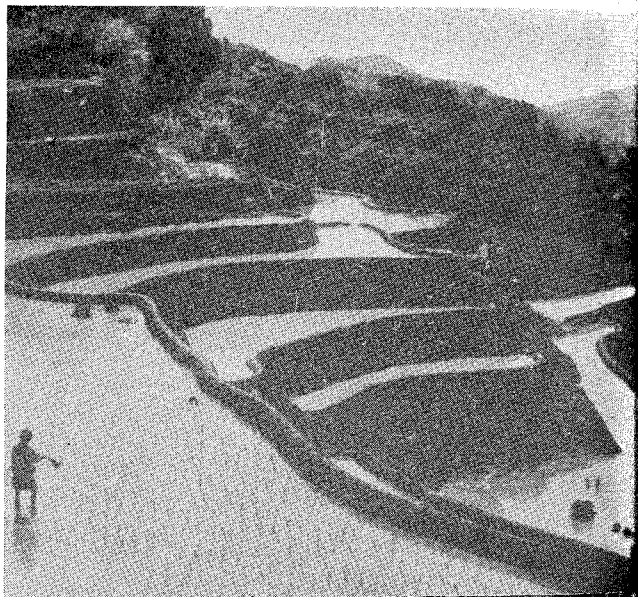
なり機關車を運轉する機關手として結構立派に勤め上げてジャワ鐵道を動かしてゐる。われわれが田舎の道路を疾走中にエンジンに故障が出来て困つてゐるときに忽ち自動車の修繕位してしまふやうな田舎の自轉車店もゐる。ジャワ族といふものを一つ取つて見ても決して人々が考へてゐるやうな原始未開どころか相當な文化を持つてゐる民族で工業機械にも慣れた者もゐるのであります。従つて單にゴム園甘蔗園の苦力、砂糖工場の労働者としてではなく、鍊成すれば立派な木工、鍛冶工になり、進んで機械工（仕上工・旋盤工・ミリング工）に育てうる人間もゐるので鍊成が肝心である。現にさうした作業に従事してゐるジャワ人の労働者もゐるので、成績を擧げてゐるから、改めて見直す必要がある。ただ機械の取扱ひに關して全過程に熟練するわけではなく、ある一部分の熟練に過ぎないから、かれらを機械工として使用する場合には、ごく小範圍の過程を一單位として他の過程から切り離し、他の過程に影響を及ぼさなくても済むやうな機械装置をして置いて一小部分に熟練させる必要がある。これは朝鮮で半島人についてもいへることである。

ミナハサ人及び軍夫に適する民族 或はセレベスの北のミナハサ族の如きはキリスト教の影響もありませんけれどもジャワ族に比して劣らないほどの、私共が行きまして衣食住總てを見ましても相



海上の高床家屋（ニューギニア）

段立水田耕作（フィリッピン）

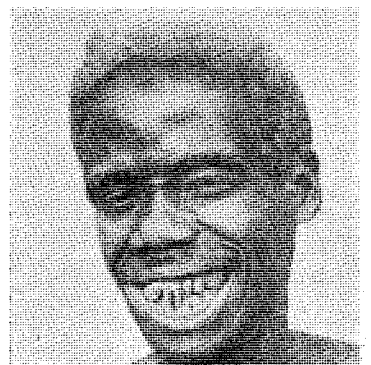




身體の彩色(ニューブリテン島人)



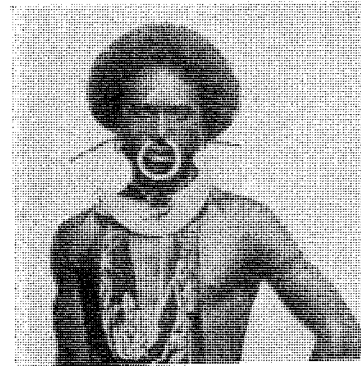
入墨(マオリ族)



齒の加工(インドネシア人)



胴部に籐製の輪を嵌める女子
(ボルネオ島ダーク族)



衣服及身體の裝飾(メラネシア族)



人肉食用祭(バタク族)

當な文化を持つて、相當な教養を持つて居る。兵士・巡査になり或はクラークになるとか、ジャワ
に行つてもマンドル、即ち勞働者の監督になるといふやうに、彼等並みの人間でなくて一段上にな
つて居る人間がミナハサから出る。南洋一帯において、軍夫に適するのは、このミナハサ人、それ
からアンボン人、ビルマではカチン族である。現にわが方においてもこのミナハサ人、アンボン人
を軍夫として使つてをり、彼らもお役に立つてゐる。

各民族の文化形態 非常に長い傳統を持つたジャワ族、或は回教文化の進んでゐる南西スマトラ
のミナンカバウ族及び北のアティエイとか或は今申したセレベスのミナハサ族の如く、或は飛んで
ビルマのビルマ族とか、佛印の安南族の如くに至つては、それぞれ漢文化や印度の文化を輸入した
上にインテリは、フランス、イギリス等、歐羅巴の文化教育をも受けられて居るといふやうな譯で
ありますから、かかる文化を持つて居る相當根強い傳統を持つた文化を持つた民族と、それから文
化の低い段階が種々雜多に出て来る譯であります。農業だけに就て見ましてもジャワ族・ミナンカ
バウ族の如く水田耕作をやり、犁を牛に曳かせて大灌漑を充分にやる事が出来、排水も充分にす
ることが出来て而も又鐵を自ら鍛へる——、自分自身の文化から鐵を鍛へるといふことまで出て來

ましたやうな民族から、或は北ボルネオの進んだダイヤ族の如く稲作といつても、所謂水田を作る
 ことが出来ないで陸稻しか作れないといふ段階のものへ下りてゆけば更に又後れたダイヤ族の如く
 陸稻の栽培さへも出来ないで粟・稗・玉蜀黍、或はもつと低くブナン族に至れば未だ狩獵採集段階
 にゐる。然るに南太平洋諸島に一番廣がつて居る作物で、原住民の主食料になつてゐるのは、タロ
 芋・ヤム芋で殊にアンボンからセラム、ソロモン、ニューギニヤ、ビスマーク諸島に互つて居りま
 すメラネシヤ、ニューギニヤに至つては未だ會て稲作をやつたことはない。陸稻さへも漸く近頃勞
 働力の培養作物として榮養があるから米を作れといふ目的で役所で奨励しても（舊蘭領・歐洲委任統
 治領ニューギニヤナウル島）、抑よ農耕技術なるものが發達してゐない彼等として、依然としてタロ
 芋やバナ、を喰つて居る。農業だけを取つて見ましてもさういふ具合であります。

更にニューギニヤで今飛行機の基地や道路を造る人夫として非常に大事なバプア人があります
 が、彼等は未だ會て企業労働者としての經驗もなければ訓練もない。産業的な長期の繼續的の規律
 だつた産業労働の框中には欲込待ない、野放しの訓練のない労働力といふものが、大體メラネシヤ
 及びニューギニヤの一般の状態でありますやうに、ジャワ、ミンナカバウ、ミナハサとか或は政治
 的に獨立を約束せられて居るビルマ乃至はフィリッピンといふものからメラネシヤの民族に至る

迄、發達段階は高級・中級・下級のそれぞれに更に種々の變異を伴ふ細別の段階があつて、要する
 にピンからキリまである譯であります。

農業にしても工業にいたしましたしても種々の形態が段階を追うて熱帯文化の最高の段階から最後の
 原始人に至る迄あるのでありますから、その意味で南洋の諸民族の文化を論ずる場合に於ては常に
 一括して單に南洋原住民といふやうな認識は、全く認識不足であることを先づ以て申上げてゆかな
 ければならないといふことは、結局各地域、各民族に就てそれぞれの特殊性を認識して掛つてゆか
 なければならぬといふことに歸着する譯であります。

熱帯民族の労働心理的特性

ここで熱帯原住民の心理的特性を少しばかり指摘しておく。

ほんの僅かしか労働しなくても、自然が豊富な球根や果實の食料を提供して呉れるものだから、
 これらの生活には、勉強、勤勉とか敏速、正確とかいふことは存在しない。ある程度を超えて、か
 れらを勤勉に働かせようとしたら、これらの活動のテンポを高めるといふことは、凡そ不可能であ
 る。従つて、このことから、豫見、準備、貯蓄といふ觀念も缺乏してゐる。

文明人はよく原住民が勤勉でなく怠け者であることを指摘する。かうした場合、われわれが文明

人の尺度を以てかれらを測定してはいけないことは勿論である。

第一に、これらの原住民は熱帯氣候の下で持續的な繼續労働に對する氣持ちが弛緩するやうな自然條件の下に生活してゐる。第二に、かれらは主食料から比較的貧弱な榮養しか攝つてゐない。だからそれだけ、能率を高めるためには、企業地に水田を作り労働者に米を食はせる必要があるのである。第三に、今までの程度に精神的な聯合を要求するやうな労働を忍がせにされて來た。以上のことがいはゆる「怠惰」の起因をなしてゐる。もしある労働を純粹に機械的に繰り返す作業ならば、原住民は、その勤勉さにおいて、決して溫帯人に負けないやうになる。だから鍊成が必要なのである。

3. 統一性なき複合文化

フィリッピン、ジャワ、ビルマ 全體南洋領域の一般に關する最大の特徴は、一つの纏まつた統

一せる文化といふものがないといふことである。何處を取りましても、ジャワを中心とする東印度をとつてもフィリッピンをとつても一民族一文化といふものが決してないのであります。即ちジャワにはジャワ四千萬人の中でも、この島の北のマヅラにはマヅラ民族が特殊性を持つて居りますし、中央ジャワから東ジャワには所謂ジャワ族が居りますし、小スンダ諸島へかけてもちがふしバリ島には回教ではなく佛教文化があり、おなじジャワでも西部地方にはスンダ族が居りますやうに、決してジャワ中心の地域一つ取つて見ましても、一民族一文化といふやうな組織だつた一つの統一した民族文化がある譯ではない。

同様にフィリッピンに於きましても一千六百萬のフィリッピン人の中でピサヤ、タカログ（ピサヤが數に於ては一番多いのでございすまけれども）を始めとして四十數種の民族があり、方言をいれると八十三の方言を持つて居つて一つの民族、一つの言葉があるわけでないことは御承知の通りであります。さういふ具合に「複合社會」であります。色々な人間が中心なくして唯雜然として混在し分散して居るのが、今迄の彼等民族の文化であり又民族のありかたであつた譯であります。

わが日本の場合に於ては既に三千年の歴史に依つて渾然たる一民族に——無論種々混血はいたして居りまされども——融合して大和民族といふものを作り成して來て、その上に日本文化といふ

統一的文化が築きあげられて来たところから見ると、このフィリッピンやジャワの「複合社會」「複合文化」の様子を推知することが不可能のやうに思はれるでせう。例へば私がフィリッピンのダヴァオに行きました時、謝肉祭の人ごみの中で市長シヤルに會ふと傍にゐる私の友人は、あれはイロカノ族だと囁く。或はカフェーでコーヒーを飲んでゐるとき、並みゐる客を、あれはビサヤ族で、あれはタカログ族だと色分けをして呉れる。かういふ風は大體人を見れば何族だといふことの品定めをしてからお互ひに話を進めて行く。政治上に於てはタカログ族が大體支配力を持つて居りますが、ビサヤ族との間に矛盾もあり衝突もある譯であります。各民族では言葉が第一違ふ。種族において違ひ、文化において違ひ、言語が違ふ。それでこれら文化、言語を一つの纏めたものに統一するといふことが、諸々の民族を引具し纏めて行く方向なのでありますけれども、即ち言葉にしてもタカログ語を國語とするといふ方針を採つたにしてもこれは中々容易ならぬことでもあります。従来まだタカログ語といふものが通用して居りません場所がある譯でありますから容易ならぬことなる譯であります。北ボルネオにはズスン族がゐるがここではマライ語が通用しない。日本の縣知事が日本語で演説するとマライ語に翻譯し、それからズスン語に譯すといつたわけである。

序ながら、フィリッピンでは戦前漸くタカログ語を國語にしようとする議が生じ議會を通過した

だけで實施にならなかつたが、日本の裁定後ザアルガス政府はタカログ語を國語と定め、只今では官廳語として用ゐ初め、東條首相はじめ日本の代表者の演説もタカログ語に通譯して放送された。

それと同じことをビルマに就てもいへる譯であります。ビルマは上ビルマと下ビルマといふ風に分かれて、そこにビルマ人が居りますが、而もその周圍には先日の東條聲明に依つて出ましたシヤン土侯州が有りました。こゝはシヤン人が居る。このシヤン土侯州を日本は一應ビルマと切り離して行く方針である。更に一月より大作戦を敢行した印緬邊境のアラカン山嶽、泰緬。緬支國境地方には種々の邊境民族がゐる。カレン族、アラカン族、チン族、カチン族、タライン族等がそれである。又、今いつたシヤン土侯州は印度支那・泰と境を接し、さうして、このシヤン人は泰族とも混血をして居る。北ボルネオのズスン族は華僑との混血民族であるといふ具合に各民族はそれぞれ混血してゐる。

しかもフィリッピンの場合には政治上支配力を持つて居りますのはスペイン人とフィリッピンとの混血兒(メステイン)であり、或は華僑とフィリッピン人の混血兒が政治上、文化上優越力を持つて居りますやうに、外國の、自分の國內の民族以外の文化が侵入して來て、その人種的混血の上に築かれる混血的な文化が矢張り支配力になつて居る。同様のことがビルマでも行はれて居るのであつ

て五十萬の混血印度人がゐる。更に五十萬の印度人がビルマにゐるのであるが、これら百萬のインド人がゐるからといつて、全體千六百萬のビルマ人に對しては比較的の僅かな割合の數ではありませうけれども、少くともビルマのラングーンについて見るとそこにあるのは、もう殆ど支配的に仕事をしてゐる者は印度人ばかりで、既に有名なチエティヤといふ高利貸、これは農民が計數の觀念がないし、殊に金融を必要といたします場合には印度人の高利貸から金融を受ける。日本の所謂青田賣買に依つて金融を受ける。ビルマ、泰では、印度人・支那人が農業地方に於て勢力を持つばかりでなく、經營してゐる者は印度人ばかりだといふ風に、これはイギリスのビルマ政策ではありましたが印度人を入れこんで勞働力として使ひ或はビルマ人の中に注入して來た得意の分割政策でありませうけれども、政策を抜きにしても一般に社會的な形態が混合複合してゐるはかりでなく、人種的にも混合し經濟上にも絡み合つて居り且つ混合文化が支配力を持つて居るのは、南洋一帯の特色である。泰は、古來支那の文化の植民地であり或は印度の佛教文化の入つた土地であり、或は近くはイギリスの經濟文化の勢力圏である。併し元々のインドネシヤなりビルマ人には固有の文化はありませうけれども、尙その上に上から與へられて居ります注入文化が、優越的な支配的な統治者としての

文化を成してゐるといふ性格を持つてゐるといふ點が、今後何事にまれ文化を論ずる場合には注意をして掛らなければならぬ特徴であります。

4. 民族文化政策の基本的問題

従前の統治國の文化政策 文化を論ずる前提として大事な事は、原住民の日本人に對する態度、觀念の仕方、これは吾々が非常に關心を持たざるを得ない點であります。この點は政治的な見方をして行かなければならない譯であります。

フィリッピン原住民は今に到る迄アメリカが最も強い國だと思つてゐる。アメリカはフィリッピンに對してプラスを與へたが、マイナスを與へないと思つてゐる。學校教育をよくしてくれた、所謂文化といふものに就てはフィリッピンが最も恩恵として感じるが如くに思つてゐる。これは一つの文化政策を見る場合に、殊にフィリッピンに就ては大事な點なのであります。一體スペイン、ア

メリカによりフィリッピン自體には固有の文化は消されたのであります。しかもジャワにはマジヤパイト王國のやうな大きな王國が出来ましたが、フィリッピンに於ては一つの大きい王國もなかつたし、文化も全然なくはなかつたがフィリッピンの大藝術、フィリッピンの王朝文化といふものが出来上つてゐないところに、スペインが約三百年入つて来て居つた譯でありますから、ああいふところの民族の常として支配者、統治者、優越力を持つて居る民族に對しては可なり順應力を示して當つてゆく、それに適應するやうに行きますのと、混血も行はれた結果として吾々がフィリッピンに行きましても驚くほどヨーロッパ文化の落胤だといふ感じを直感するほどに、殊にダンスホールに行つて踊るところから、酒を飲んでさんざめき、笑ひ歌ふあたりから生活の隅々に至る迄、西洋文明の落胤である。そこへアメリカが肩替りをし、學校——さう大して綺麗な學校でもありませんけれど英語を國語として慣用語として、教育制度をアメリカナイズしてゐたのでありますから、その點からフィリッピン人が益々ヨーロッパ乃至アメリカの文化の落胤だといふやうな外貌をとるに至つた。かれら大衆は魂の底までは決してアメリカナイズして居りませんけれども、殊に農民の場合に於ては決してアメリカナイズして居る譯ではありませんけれども、かういふ民族の政治をしてゆくいほゆる政治家はフィリッピン人千六百萬の中でほんの僅の少數だけが政治を指導して

行く譯でありますから、比較的固有の文化のなかつたところでの、又ウンと低い文化の諸民族の間にあつては常に、アメリカ的な悪い言葉で言へばボスでありますから、ボスが結局政治を引張つて居る譯でありますから、いい意味にせよ、悪い意味にせよ、本當の少數分子が政治をして文化を代表して居りますから、その人間がアメリカナイズされて居る限りに於ては、確かにアメリカナイズされて文化が代表されてゐるといふことが言へる譯であります。この點が日本のかれらに對する文化工作の場合に於ては中々難かしいが又充分に注意を要すべきことなのであります。

次には、それと同時にカソリックの文化であります。何處の村へ行つてもカソリックの教會が建つて居り、その坊さんのいふことなら何でも聞く。又その坊さんがサービス、慈善事業をすることゝは結構であります。それと同時に、この宗教家が民衆の生活面に直に干渉し指導する譯であります。教育をこの宣教師がする譯ですから、國民學校の教育といふともう既にカソリックの教育をする處に於てそこに又政治面と非常に密接に結び付いてくる。殊にバチカンといふ法王廳を戴いて居るカソリックのビショップでありますから、國際政治とも直ちに結んでくるといふので、カソリックそのものは政治を自己體ではありませんが、宗教を通じて民衆の生活、教育といふところに結んで來ますと慥かに政治と結びついて來る面が多分にあるのであります。さういふ特徴がフィリッピ

ンにもあれば、色々と形は違ひますが、新舊のキリスト教の公布されてゐる地方にある。さらに回教は、ジャワにもスマトラの原住民の生活に浸透し、風俗習慣・文化・教育からサルタン等の土侯政治・裁判に迄及んでゐる。——かくの如くに宗教は南方諸民族の生活から政治に至るまで密接に結びついてゐる。さういふ處に日本が、彼等の文化を充分に理解しながら、而も尙且つかに於て日本の文化を滲透せしめてゆくか、そこに問題がある譯であります。

日本の民族政策 第二に今度は日本人が異民族に對して接觸した場合の特徴を経験上二、三考へて見たいと思ひます。由來任那の國を領地とした古代は別として或は豊臣秀吉の朝鮮征伐といふことを別にいたしますと、吾々が異民族と接し異民族を指導し統治し或は異民族を日本を中心とした文化圏の中に協力せしめてゆくといふ經驗は、明治以後になつて始めて出來上つたものでありまして、それまでは吾々日本人には實はなかつた譯であります。そこで吾々としては充分にそこから生ずる短所や或は長所を考へてゆかなければならないのでありますが、少くとも異民族を取扱ふといふ經驗に乏しいものでありますから、何でもかでも日本人の尺度で以て異民族を扱ひ、異民族を指導し、異民族を行政し統治し、日本の文化といふものを一足飛びに、強制的に、天下的に、命

令的に押込むと、無論押込められた方は先程申した通り順應性を持つて居りますから、表面上は、——それは日本人ではなくしてヨーロッパ人でも相當ヨーロッパ文化を天ぶら的であれ——被せてゆくことは出來たのであります。本當に魂の底から彼等を協力せしめ、殊に現在戦力増強といふ目的の下に彼等を單に協力せしめるといふやうな生易しいことではなくて、彼等をして戦列の一員に配置して動員してゆくといふ場合には、魂の中から彼等を牽きつけてゆかなければならない點に於て、多くの考ふべき問題がある譯であります。

吾々として小乗的な日本人の尺度を以て天下的に強制的にやり過ぎるといふことは反省して宜しいのでありますが、——といふことは又反面に於て彼等異民族の社會組織、民族經濟、慣習風俗といふものを充分に認識して、又彼等の習慣風俗といふものは決して單なる風俗や慣習ではなくて、政治と直接結び付いてゐるデリケートな問題なのでありますから、それらのものを、彼等の文化といふもの全體をよく理解し認識して掛る準備と用意とを必要とする譯であります。もう一つ經濟人が南へ行つて仕事をする場合、勞働者を使ひ或はクラークとして使ふ場合、直ちに生活の面に於て直面するのでありますから是非心得てゆかなければならないと思ふのでありますが、例はいくらでもありますが、農業の例を取りますと人糞施肥をいたさない。これは回教一般は穢れに對して

は忌みます。その外の理由もありませう。けれども農業の生産力を擴充せしめる爲には無論糞尿肥料をやる必要がある。實際やれば反當り一石のものが一石五斗になることは明瞭でありますけれども、彼等農民の慣習としては決して糞尿を施肥としてやらないといふことであれば、いくら米を早く増産しようとしたところで糞尿肥料を勧める譯にはゆきません。

セレベスでも最近棉花栽培をいたして參りましたから早速に勞働力を動員して居るのでありますが、去年の十一月、丁度回教徒の斷食月に當ります。この時には——無論斷食と申しましても晝間は喰はないが目没以後は喰ふやうでありますけれども、兎も角斷食して居つては棉花栽培の勞働力にはなりませんので、何とかして斷食をやめるとか、半分にしなければ、棉花栽培を高度にいたしてゆくことは出來ないのであります。けれどもこれに直に手をつけるといふことは餘程考へてゆかなければならない。或は最近の例になりますと、フィリッピンのモロ族、ミンダナオの回教徒は非常に狂信的な回教徒でありますが、これ亦斷食月の一番終りの日に饗宴をする、その日は全然働かないで休み饗宴を張る日なのであります。この日に此方としては勞働力が必要だといふので強制すれば、非常に怒りだし、刃傷沙汰に及び治安を害して來ると始末が悪い。

勞働力といふことだけを考へて見ても中々宗教と結んで居り、さういふ戒律或は慣行といふもの

が生産力を假に阻害して居つても、或は日本の戦力増強の方針には副はないにしても、これはやめさせたいには違ひないけれども直にやめろといふ譯にはゆかない。そのコツがあるといふことを常に心掛けてゆかなければならない。又左手は非常に不淨だとして居りますから左手で物をやれば非常に侮辱されたと考へる譯でありますし、回教徒なり或はビルマの佛教徒なり、宗教文化と結びついて居る慣習、戒律といふものに就ては充分に認識した上でないと——かりにその慣習が不合理で改革が必要であるとしても——直ちにこれに手をつけてゆくことは注意を要するといふことが第一点であります。

それから第二点といふのは寧ろ最も重要なことであります。いづれ日本の文化を滲透させてゆくことが主にならなければならぬのですが、現地に行きますと日本人の文化を引下げて現地に理解させようとする傾向がある譯であります。これは最も戒心を要することでも最も高い文化のみに彼等は尊敬を拂ひ服従してゆくのでありますから、こちらから持つてゆく文化がもし彼等に合はせるやうにこちらから引下げてゆくならば、彼等は日本人を馬鹿にして決して従つてこない。

最も卑近な例から申しますと、私がセレベスに參りましたときビートン島といふ島がメナドのすぐ北にあります。尤もその島でなくてもメナドでも或はボルネオのクチンでもサンダカンでも又

はタワオでも戦前に於て既に耳にして誰れでも御承知の通りであります。兎も角原住民に對して自分が日本人としての威嚴或は日本文化の品位といふものを考へないで、原住民と伍して生活するといふやうな態度であると、あつちには日本の軍隊は強いと思つてゐるけれども、日常逢つてゐる日本人は素裸で禪一本で下駄ばきで往來を歩いてゆく。立小便をする。これでは日本人はさういふものかといふ觀念を彼等に與へてしまふ。

ビルマにいたしますれば例の最近來ましたバーモ長官が着て居りましたが、あのロンギー、東の印度の方ではサロンであります。腰から下は女でも男でも絶対に見せないのではありません。これは慣行でも規則でもない風俗でありますけれども、この風俗は人間が人間を評價をいたします場合には、品位になるのであります。上は裸でもかまはないが腰から下は絶対に禪一本といふやうなことは——尤も事實は中々暑い所でもありますから、さういつた點は難かしいことなのでありますけれども、併しオランダの官吏などはあの暑い所でも現住民に接する場合には嚴めしい服を着て秩序整然として應對するのであります。こちらの方は異民族を取扱つた經驗がないといふよりも、他民族に對して、威嚴を示す、品位を保つといふやうな人柄に出來てゐない。これが又日本人のいいところではあります。又他面異民族を扱ふ場合に於てはこれが最も短所をなして居ります。

やはり官吏は官吏としての制服も立派に態度も嚴然と威嚴を保つて、彼等を指導するといふ立場に於て接觸してゆかなければならぬやうに、又會社の方々に於ても同様な態度を以てプランテーションの使用人、監督に對し向はなければならぬ。又一市民として往來を歩く場合に於ても素裸で鉢巻、更に立小便といふことは最も彼等が蔑すむところなのであります。かういふ點の心得が誰れがどうといふことではないのであります。日本人一般の南の原住民に對する態度といふものが國民教育の中に滲透して居りませんから、戦前ばかりでなく現在に於ても屢々原住民の髷鬘を買つたこともあります。

ピートンの話からこの話が出ましたが、原住民の方からオランダの政廳に向つて、どうかして日本人の素裸をやめて欲しいといふやうに却つて原住民の方から、以下に見られるやうなことが決してないでもないのであります。セレベスのマカッサルへ船が着くと——みな然るべき方々が乗つて居つたのであります。——丸木船、カヌーで原住民が色々な物を賣りに來る。「來い——」と怒鳴つたけれども日本の言葉が通じませんから來ないと「馬鹿野郎」といふやうなことを言ふのです。それで原住民が馬鹿野郎だけ覺えてしまつて日本人を見ると馬鹿野郎といふやうな言葉を使ふといふやうに、つまらない例でありますけれども、言葉自體決して品位を下げない國語を使つて彼

等をして萬事、日本人を尊敬させてゆかなければならないのであります。

日本人が威厳、品位をもつて原住民の尊敬をかちうる。あらゆる文化面で日本的世界觀をはつきりと持つてゆかなければならないと同時に、日常生活の上にならても教養、品位といふものを保つてゆかなければならないといふ點が第二點に申上げたいのであります。

それと關聯いたしまして第三にはビルマにいたしてもフィリッピンにしてもマライ、ジャワにしても一番彼等が歐米人、とくにアングロサクソンに對して反感をもち、逆に日本、日本人並に日本の文化に對して親しみを懷いてみましたのは、人種的な偏見がないことなのであります。

從來フィリッピンにいたしてもアメリカはかなりの程度所謂經濟的な搾取をいたしまして、又單一的に砂糖ばかり栽培させましたから民族經濟として片輪にされて居つたことは、マライに於ても、米はビルマからの輸入米に依存し、米の出來るところに作らせない。ビルマに於ては米ばかり作らせて鹽は作つてはいけないとか、印度から入れるやうにするとか、又總じてどこでも工業の發達を抑へて來たといふやうに、經濟が片輪になつて居つたことは事實であるに拘はらず、その點よりも彼等が嫌つて居つたのは、アングロサクソンの人種的な優越感、又アングロサクソンや蘭人の人種的な文化の偏見であります。スマトラでも大きい芝生の廣場には原住民を入れない。然るに

このスマトラのメダンでは、このオランダ人の作つた芝生の廣場を解放し原住民や支那人をも自由に入れることを許した。子供の遊び場にもした。原住民はオランダ人が禁止してゐたものを解放したのでとても喜んだ。これは日本が今南方民族に政治經濟を行ふ場合に大切なことである。各民族が何とはなしに日本人に親しみ、何とはなしに近寄つて來る。その間に決して嚴然たる人種的な偏見、差別待遇といふものがないといふ點こそ、なんとなく彼等が追従してゆきたいといふ氣持を持つ弊國氣をなす根本の大事な點でありますが、これは日本人の長所であります。

更に一例をつけ加へると例へばマライにいたしても、從來はイギリス人は決して彼等と一緒に宴會をいたさない。自分の家に招ぶなどといふことは決してしたことはありません。官吏として陳情に出來る場合に——それでもサルタン・ラージャとか或はそれ以下の上級役人が來るやうな場合にはやはり儀禮的に待遇をいたしますが、さうでない陳情といふやうなものに來る場合には——隣の部屋で陳情させる以外には自分の部屋までは寄越さない。或は來たにしても跪づいて陳情させる。日本人が米國に行つてもクラブに入れないのであるから、況んやアングロサクソンは原住民との間に嚴然たる差別待遇が猛烈であつたのであります。

今度日本司政長官が行きまして直接にかかれらの陳情を聽き、さらには彼等と宴會で一緒に飯を喰

ふことだけでも、原住民官吏は日本人に親しみを感じて居る。何でもないことでありながら、日本人が彼等を治めてゆく或は彼等の中に日本の文化をいれてゆく場合、八紘一宇の仁愛を以てする。われわれは決して彼等を生れながら人種がちがひ、むしろ動物に近いものであるといふやうなアン・グロサクソンの偏見、或はキリスト教を信じてゐる者は神の子であるが、それ以外の者は動物に等しい者とか、表面はさうではないが本當の心の中ではさういふやうに思つてゐるといふことではなしに、極めて和氣藹々の裡に指導してゆく。原住民と日本人との間の關係は決して、強制權威・命令服従の關係ではなく、他をして進んで共榮圏の中核、日本を輔翼せしめる。これが日本文化の指導的な包容性・綜合性であつて自然に指導者日本に協力させてゆく。

日本文化の綜合性・包容性、或は人種的偏見なしに彼等を弟分として、子供として、弟子として誘掖し指導してゆくといふ氣持が文化を指導する場合に於て基礎になつてゆくものだらうと思つて居りますと同時に、この反面もう一度吾々としてよく反省しなければならぬ事は、ともすれば又その故に彼等と對等であるかの如くに彼等をして見縊らせる態度や文化のいれかたといふものが、どうしても免れない點があるので、この點は餘程反省をしてゆきませんかへつて馬鹿にされる。親しみが狎れに變り、狎れが直に侮りに變るといふことにもなるのでありまして、一番始めに申し

ました通り常に外國文化から指導されてきた彼等でありますから、やはり文化が偉いものだと思ふところに服従心が出るので、文化の指導者たるの地位を抛つても、彼等並みに伍して對等の關係であると彼等をして思はしめるやうなことがあるならば、決して文化の指導力といふものを滲透してゆくことが出來ないのであります。一口にいへば恩威並び行ふといふことになりませんが、この邊の呼吸が文化を論ずる場合に於ても日本文化を滲透せしめてゆく場合に於ても大切だと思ふ。

5. 日本の文化政策

日本の科學、技術 今日まづ大切なことは、戦力を増強し、原住民を戦列の一員たらしめ、又原住民の生活を安定し民心を把握し、更に日本を尊敬し、信用せしめることである。文化も亦このことに役立つものでなければなりません。しかも、日本を尊敬し信用せしめるやうに日本の文化を入れこむ爲めにはどういふ仕組でゆくべきかといふ點も考へてみたいのであります。

さてこの問題を考察して見ますと、無論文化と言つても多種多様でありまして、やれ映畫を持つてゆくがいととか、或は優秀な者を留學生として日本へ送り込むがいととか、又はあちらに實業學校を作るとか色々考へられますが、先づ根本的に申しますとさういふものも凡て戦力増強に集中すべきです。現在根本の問題は戦力増強であることは疑をいれないところでありまして、殊に軍需資源の開発が最も緊急を要して居ります。それと同時に現地軍、我は現地に居る日本人の自給自足が——兎も角船舶も不足でありますし、物資もジャワだけは今年一ぱい位は豊富にありませうけれども、現在ボルネオ、スマトラ或は戦場のニューギニヤなどは尙更のこと容易に食料を送るといふことは出来ません。

嘗てはジャワの資源が各地に行つて居り、或はセレベスの鹽がボルネオに行つて居りました。さういふ具合に物資の交流が各島々の間にありましたから、そこで東印度の經濟は保たれて來て居りましたが、併し今日に於ては謂はば斷切れて居る。至るところ、現地の自活、軍需資源の開発、民心の把握、この三つが現在の最高の要請で、總てそれに向つてゆかなければならないのであります。そこで單に留學生だとか、或は映畫だとか、ラジオの放送だとか、普通文化と言はれてゐるそれらのものよりも、もつと根本的に吾々が文化としてなされてゆかなければならないのは生産文化である。

彼等の生産を促進してゆく、或は日本の必要とする軍需資源の開発といふことに即して、その生産を補充し、戦力の増強に役立つ、さういふ文化を擧げてゆく、さういふ文化政策を施してゆくといふことが、彼等の生活を安定せしめる所以でもあり、彼等の生活を向上せしめる所以でもあるのであります。即ち生活なり生産と結び付けて日本の文化を押し進めてゆくといふところに日本の原住民に對する文化政策の出発點、そして又、戦争完遂のための當然の課題があるのであります。さうして、それが進んだ日本の科學技術を基礎にしてゐれば原住民は日本を尊敬する。

そこでさういふ考へ方の第一の點は、農業、技術、文化であります。文化といふ言葉、カルチュア、それ自體が耕作なり、農業といふことに結び付いて居りますやうに、先づ以て彼等の農業生産をあげてゆくことが文化自體なのであります。彼等の生産力を農業に於て促進してゆくといふこと自體が、彼等の生活を安定せしめることになり、彼等の生活を豊富にすることであり、又それが現地に居る日本人の自活になるといふことが、日本の文化政策の基調としては第一點であると考へます。

要するに未だ陸稻しか出来ない所であれば、水田耕作を教へこんでゆく。水田の反當り、收量を増加してゆく。灌漑排水の設備をよくしてゆく。或は未だ木の鋸を使つてゐる所が至る所にありますか

ら、家内工業を興してでも鐵の鋏を作つてゆく。會ては漢民族の文化の農業技術といふものが、南方域に影響を及ぼし、漢人の文化が彼等の文化を支配したやうに、更にそれよりも一歩進んだ科學日本の科學技術の文化が、彼等の生活を豊富にし安定してゆくやうに入りこむことが出来るなら、それだけでも何百年來の漢文化及び印度文化に對する彼等の影響力よりも大きくなつてゆく點に於て、かれらは日本を尊敬する。先づ農業文化に於ける技術を入れこむこと自體が日本の文化政策である、斯様に思ふのであります。

經濟の多様化、經營の多角化、工業化　これは今農業の例に就て申しましたが、先にも一言いたしました通りフィリッピンに於ては單一栽培、所謂植民地栽培、國際市場といふものを目當にして、砂糖だけを作らせるといふことでフィリッピンに對する經濟政策が行はれ、そこにアメリカナイズされた砂糖業者が政治を牛耳る。政治迄もアメリカナイズされたといふことは、さういふ經濟政治の問題と結んだアメリカ文化なのであります、そこで片輪になつてしまつたわけでありませうから、現にリンガエンなりビサヤ・ネグロス地方に棉花の栽培をいたしますやうに衣料生産においても、できるだけ自給自足するやうに育成してゆく。經濟を多様化し農業經營を多角的にいたしてゆ

く其礎の上に實業教育をも多角化し、文化をも生活に即して多様化してゆく。かうして彼等がフィリッピンだけで一應自給自足が出来るといふことに始めて文化は統一的になり、高度に發達してゆく根がある譯でありまして、それがなければ、歐米外國の文化が來て表面だけ天ぶらにしたにすぎない譯で、フィリッピンが根本に成り立つためにはフィリッピン自體が自給自足して、棉花も出来ればある程度の紡織もやり米も充分に自分の國で出来ればコブラから石鹼を製造しマツチも出来るといふやうに、生活資料の生産では自給自足の生活が出来るといふやうにして、始めてその上に共榮團内における統一的なフィリッピン文化といふものが出来てくるのでありますから、さういふところを促進してゆくことが文化政策であります。又それに依つてのみフィリッピンの固有な文化といふものが築き上げられ共榮團の建設に寄與してゆく。

同じやうなことが工業に就ても言へる譯でありまして、ビルマにいたしますれば未だ工業が一つもないと言つていい位であります、家内工業を起して現地必需品を自給自足させるべきでせう。ジャワに於てはジャワ更紗やサロンのやうな織物とか染物のやうなものは相當に發達して來ましたけれども、決して伸ばされて居らない。フィリッピンにしても同様であります。フィリッピン人やジャワ人が紡織業が必ずしも出来ないかといふとさうではない。紡織業に合ふやうな適應性のある

人間があるに拘はらず、紡績業が興つて居らない。セレベスに於ても同じでありまして、現在の工業としては紡績でありますが、今綿布を日本もさうくやられませんか上海の方から出てゆくものはさう澤山ではない。ジャワや比島では全然この自給は可能であるとは思ひませぬけれども、着物にする位のもは、或は着物ばかりではありませんんで、回教徒は死んだ時のお棺の中にいれる死人の着物が欲しいし、又暑い所でもありますから始終洗ひますので今迄のやうな人絹などでは切れてしまひます。兎に角綿糸布は現在南方圏の至るところにおいて絶対に必要なのであります。一番足りないのは綿糸布と鹽と、マツチなんでありまして、さういふやうな生産を自給せしめ延いて、共榮圏の建設、現地軍の自活に寄與せしめてゆくとこゝに文化政策があると考へるのであります。

棉花が少ければ、ラミーでも宜しい。原住民の古からの衣料たる樹皮布をもう一度復活させるがよい。そのほか蠟燭、石鹼、ブタノール、パーム油の如き工業を興す必要がある。

藝術部門　これは政治とも關聯いたしますが、先程述べた日本人が割合に異民族を激ふことに馴れて居らない爲に彼等の特長といふものを採り得ないといふ點にも關聯いたしますが、文化として彼等の持ち味の甚だ面白い點は、歌と踊に關しては生れながら豊かな天分を持つて居るのが南洋一

般の原住民の共通性であります。フィリッピンであれジャワであれバリー島であれ或は嘗ての内南洋のサイパン、パラオにいたしても、國民學校に参りまして原住民の子供が椰子の木を描いてゐる畫などを見ますと、どうしても日本の中學校の生徒や大人が描けない位な立派な畫を直感力で書いてゐる。それが段々年をとつて來ますと發達が鈍つて來る譯であります。彼等の歌、踊、それから畫といふやうなものには非常に天分があるのが一般であります。又それが無性に好きなのであります。

更に好きなのは賭博であります。何かといふと雞の掛合で賭合ふといふことをやります。バリー島のは著名だが、アンボンでもフィリッピンでもさうである。日本人から言ひますと賭博の如きは無論禁止すべきだといふ議論が出て來るのであります。治安に害がある場合は格別でありますけれども、さうでない場合は、彼等の最も好きな唯一の楽しみにしてゐるといふやうなものは、なるべく保存し乃至はものに依つては助長してゆく方が、治安を維持し又彼等を治めてゆくことになる譯であります。この點は充分に考へてゆかなければならないことであります。

最近富籤も出來ハイヤライも競馬も許して來た地域もあるやうでありますし、賭博は別にいたしましても彼等の固有の傳統的な音樂、芝居、舞踊の民俗の傳統に築かれた民衆文學・文化はなる

べく保存し助長してゆく。これはオランダの政府やイギリス、アメリカの政府は全く無關心であり寧ろ排斥して居つた點で、日本が中樞になつてアジア人のアジアの文化を築いてゆくといふ點に於ては、彼等の郷土の藝術の、民衆文學、例へばジャワのワヤン影芝居、ワヤン文學といふものは出来るだけ進歩普及させてゆくと同時に指導してゆくといふことが必要でもあり、又さう政治的に考へないでも、さうさせて置けばそれで以て充分に慰められ、治安も保たれてゆくのでありますから強ひて制限したり禁止してゆく必要は毫もないのであります。

私がダバオに行きました時に、カーニバル祭(基督教の謝肉祭であります)にぶつかつて、ゆきますと、夜の九時から夜中踊るのであります。フィリッピンの場合はスペイン文化の影響を受けて居りますが、そこはやはりスペイン人なりイギリス人、アメリカ人の旨いところで、彼等の好きなものの中へ自分達の方のカーニバル祭といふものを入れこんで、それを助長してゐたから、スペイン風な踊りが今に至るまで行はれて來たのであります。さういふやうなやりかたで、彼等の好きなものを伸してゆき、而も歐米文化とはちがひ、今度はわれわれはかれらの郷土文化、廣くいへば東洋の文化を自覺發展せしめ、愛好する郷土文化の中へ一歩々々に東洋文化の精粹たる日本文化の眞髓を浸透させてゆく、かういふやうな日本の文化政策が欲しいものだと思ふ。

更に運動會・旗行列等がある。從來の歐米統治國は原住民をして集團的な運動をさせることを嫌ひ禁じてゐたので、今各地で日本がこれをやらせると非常に喜ぶ。——これは精神的體育的のみでよいことである。

6. 華 僑

團結・自治 それから文化を論じ或は民族を論じます場合に、殊に經濟の面から論じます場合に最も重要なことは華僑なのであります。これは後に又お話がありますから一般としては申上げませんが、文化の問題からこの點は大事であり、又華僑をどういふ風に使ふかといふことも、丁度民族と關聯いたしました先程からのお話の關係上どうしてもこれを省く譯にゆきませんから一言させて頂きたいと思ふのであります。支那人は何處へ行きましたも民族的な強固の團結、民族的な文化といふものを低めないでねち／＼と執拗に繁殖してゆく民族である。

南方域の何處へ行きましても、例へば昭南でも、スマトラのメダンでもセレベスのメナドでもマカッサルでも、サイゴンの近くのシヨロンでも華僑だけで纏まつた町を作り、華僑だけの學校を作り、華僑だけで帮(相互扶助の義)即ち團結力の強い仲間組合を作つて居る。北東ニューギニヤのラエヤサラマウアへ行きますとメンストリートの傍の方へ一塊りとなつて支那人だけが住んで居ります。ビルマは数が少ないのですが、マライは殆ど半分は華僑と見ていゝ譯であります。彼等は漢文化を維持してゆくといふ行き方で決して原住民と混合してゆくといふ形を自身としては執りませんで、漢民族の文化を彼等の中に入れこんでゆくといふ執拗な粘り強いやりかたであります。海南島の例で分ります通り明の時代では徹底的に苗・黎族を討伐してしまひました。苗・黎族といふのは海南島の嘗ての原住民で、支那人は太古は苗族と一緒に居りますが、一應漢民族とは別個な民族であります。清の時代は畧る苗・黎族を立ててその酋長をして治めしめるといふやりかたを執りましたが、漢族は何れにしましても粘り強い、生活力の旺盛な民族で漢文化を入れ込む。

けれども彼等の上に普通いふ國家といふものはありません。清朝もあり明朝もあり或は中華民國政府といふものもありますけれども、結局どうでもいゝし、又餘り頼りにもならない國家でありますから決して頼つて居らないのであります。頼りとなるものは彼等仲間の團結で、第一に血

縁の團結、第二は郷土——福建なら福建、廣東なら廣東、而も廣東省の中の中山縣とか或は潮州とかいふ郷土の團結を以て潮州會館を作り根強く團まる譯であります。それから第三の團結は職業的な團結で、大王は大王仲間、商賣人は商賣人仲間といふやうな團結であります。

要するに第一には血縁的の家族、所謂宗族、始祖から幾通りかの直系、傍系の家族が出て参りますが、それらを一團として宗族が生ずる。それが單なる遠縁といふやうに、お墓詣りするだけでなく困る者があれば救つてやる。お棺を——支那人は一番お棺が大事でありますから、その世話をしつてやる。國へ歸りたいがお金がなくて歸れないといふ者があれば、お金をやるとか、送金も世話してやるとか、萬事總て宗族中心に團まつてゐるのであります。その外に郷土の帮を中心として至る所に團まつて居り、カナダやニューヨークまで紅帮は擴つてゐる。

セレベスの容幫で申しますと、落下傘部隊の降りましたメナドに帮の團まりがあります。さうするとトモホン湖といふ湖のある所まで四、五里ありますが、そこに又帮と繋がりを持つたコブラの商人が居る。又その上に山の方へ行きますとコブラの小商人がある。さうするとコブラはずつと山奥から段々と帮の網を通じてトモホン湖に、トモホン湖から結局メナドの方迄出て來るといふ緊密な仕組であります。華僑の送金もその網を通じてやれば、税もオランダ政府は支那人仲間の親方

(頭家)に課^かけてゆけば、支那人の方では自治してその親方(頭家)に税を収めてゆく。喧嘩があれば裁きをする。原住民裁判所で被告が支那人だと、この頭家を呼び出し参審させる。東印度ではこの親方を「キャプテン・チナ」といふ。かういふ風に「キャプテン・チナ」は領事の役目もやれば、日本の商工會議所のやうな仕事もする。税の請負人にもなる。裁判官・仲裁人・参審員の役目もする。かやうに、かれらには國家がありませんから、長老を頭に戴いて極めて自治が發達して居り、その上に粘り強い自己の文化を包容してゆくといふやうなものである。

かれらの教育のやり方　かれらは國家の補助を受けませんで自分自身で金を出しあつて華僑の學校を造り、さうして漢民族の教育をしてゆく。孫文が三民主義を作つてゆけば三民主義をそこで教へる。又家庭に於ても父親が子供を漢民族として育てるといふやうに世話をいたす譯であります。

殊に混血の場合にはこれが問題になるのでありまして、混血は非常に多いのであります。混血兒が出來ました場合には、教育といふものを一體誰れがするかといふことに依つて、ある民族の文化が向上か或は墮落かといふことが生ずる譯であります。もし母親任せであつたらば原住民の女でありますから、その子供が日本人の間に出來た子供でも原住民になつてしまふのであります。血が半分

入つて居りますに拘はらず、教育文化といふものを母親が世話をしてない限りはその子は、文化的に社會的に原住民になつてしまふ。

ところが支那人は混血兒をどしどし生むが、男親が面倒を見てゆく限りに於ては混血兒を支那人に育ててゆく。男子は郷土に歸して教育もし、女子は原住民と結婚させずに一代目華僑たる新客と結婚させる。さういふ風に民族の文化といふものを國家の力に頼りませんで入れこんでゆくといふ團結と、文化保持のやりかたといふものが、彼等の文化を失はずに——現在は文化自體は非常に遅れてしまひまして日本のやうな科學文化がないのでありますけれども、嘗ては彼等原住民に影響を及ぼした比較的の高い文化を持つて居つたのでありまして、さういふやうな具合にして文化を保持してゆく。

華僑對策の要諦　南洋では、漢民族の文化と、原住民の文化と、ヨーロッパ人の文化と、この三つが人種別に數の多少は別として、文化的にそれ／＼融合しないで複合的にあつたといふのが戰前の情況であるのであります。今後日本の文化政策をどういふ風にするか、米英の文化は兎も角追拂つてしまひますが、今の主題である支那文化をどうするか、或は支那人をどうするか、華僑をどう

するかといふことは中々難かしい問題であり、大きな問題であります。従来は、商業行商・問屋商は勿論、バス營業から、船商人・新聞營業・製糖業・映畫館などみな華僑が握つてゐたのでありますが、その外に廣東人は小工業に従事する者が多く、更にバンカ島の坑夫、パレンバン東ボルネオの石油業に稼働してゐる者も廣東人に多い。

唯原住民は甚だ計算觀念が乏しいので、三錢の花を三つ買ひましても、三錢づつやらないと勘定が合はないといふやうな譯で、その點支那人は天才的に商賣が旨い。計算の才能があり、掛引が旨いので、これを以て原住民の中にどん／＼入りこみ、文化を植付けて行つたのでありますが、この華僑をどうするか、これは慎重に考慮すべき問題であります。かれらが農民相手の金融機關をもつてゐるかぎり、急速に之を苛めると、原住民が米を賣り出しえなくなる。従つて精米業や金融業者を巧く使つてゆく必要がある。

そこで華僑にも二つあります。「峇々華僑」と「新客」と二つあるのでありますが、現在ジャワのやうな所でも數十年來或はもつと長く居る者は原住民化して居り、支那人と言つても支那語は出來ない。吾々が参りました「お前の名前はなんといふのか」と聞きますと、支那人的な名前をいふけれども漢字が書けない支那人が居る譯であります。所謂峇々華僑といふものは原住民化して居る

譯でありますから原住民として取り扱ふ。文化の特殊性からして漢民族を直ちに原住民の文化と同視することは出來ませんけれども、兎も角原住民として扱つて置き、文化も漢文化との間の連鎖を斷切る譯にはゆきませんが、日本的指導の下に漢文化の訓練の仕方をしてゆくことに依つて——従つてジャワならジャワ、マライならマライの統治下に於ける華僑といふのは、華僑でなく原住民として唯原住民にマライ人と支那人と二つあるといふやうな扱ひで文化政策もなされてゆくことになるのであります。新客の場合だけが尙問題が残る譯であります。

新客と言ひましても勞働者もあればインテリもあるのであります。要するに重慶的政治意識の濃厚なものは徹底的に之を處分してゆかねばなりません。最近重慶の方からも、華僑と何も連絡がないに拘はらず、華僑對策といふやうなものを決議して居るのが新聞にも出て居りますが、會て重慶側では文化を通じてゆく華僑工作、即ち芝居だとか映畫だとか、さういふものを通じて、何時とはなしに撥蔣愛國公債を買はせて來たのが重慶の今迄のやりかたであつたのであります。さういふ點、こちらの方は非常に手ぬかりなことが多かつたのであります。

華僑として第二には勞働者であります。先程勞働力としての各種の民族に就て述べてみたと同じやうな角度から、一、二點申上げますと、結局使ひ方は支那人で一番大事だと思ふのは頭家なので

あります。これは獨り南洋に限らず、南洋は寧ろ出張りで、本土支那の民族と經濟的に協力してゆき、日華の經濟の提携をしてゆくといふやうな場合に相手方となるものは、紳董、又幫の頭家である。紳董は昔の言葉では紳士——學問があり徳望があり、金も相當あつて一般人民から或は實業界の仲間から仰がれて居る、又人を使ふことも旨い。民心を収めてゐる。この紳董が支那人仲間を動かしてゆくので決して日本の國家に於ける人民と官吏との關係でなく、日本では官吏が中樞で實際ことが決つてその通り行はれてゆくのでありますが、支那の社會の内部に於ては一般實業界にしても、要人、官吏といふものを全面的に支持したり全面的にこれに服従するといふことは決してない。隱然と社會經濟を動かしてゐるのは、民間の紳董である。

要するに官吏は一つの勢力者としか見られないので支那の經濟を動かしてゐるのは大小の紳董である。本當の日華の提携なり、支那人と提携してゆくといふ相手方は民間人であります。民間の中に隱然勢力を持つて居る、所謂文化的に非常に鍛錬された紳士とか貴紳とかで、相當實業界で鳴らして來た長老であります。而も單なる資本の持主だけでなく文化の代表者であるといふ點に支那の民族社會の特殊な性質があるのであります。要するにこの長老、或は紳董、頭家といふものを擯んで、それに相當な利益をも與へてゆく。労働者を使ふ場合は「把头制」で特に請負制度を活用して

ゆくといふことが、本當に支那人と、二緒に仕事を、する場合、或は支那人を使つてゆく場合の要請なのであります。どうも日本人の場合であります。つい要人ばかり相手にして要人と相談すれば事柄が決まるやうに思ふのであります。殊に今の労働力を使ふ場合に於ても、頭家といふものを擯みそれに依つて請負的にやらせる。その代り歩合として親方に仲介料を取らせるのであります。さうするとそれが全部責任を以て労働者を使ふといふやうに、華僑を使つてゆきます場合には幫と頭家との關係を充分に考へてやつて戴きたいと思ふのであります。

7. 混血兒の問題

諸民族及び文化が接觸をいたし又、統治民族が植民致しますとどうしても混血の問題が起つて來る。これは文化の問題としては、廣い意味での文化としては相當重要な問題であります。スペインは植民をいたしてゆきます場合には、混血を奨励してゆくといふ方針を採つて參りました。又、フ

イリッピンの場合でも舊大統領のケソンはスペイン人との混血兒であるし、舊副大統領のオスメニヤは支那人との混血兒であつた。

フィリッピンに行つて混血兒といふことはむしろお世辭になる譯であります。さういふ具合に、スペインは混血兒を造りましたが、より文化の低い民族の、文化接觸に依つて生じた混血兒は、より低い民族から見れば結局より高い民族の文化を受け入れてゆく意味に於て、随かにいいのが出来る譯であります。即ち、従來のフィリッピン人よりも混血の方が上等であり高尚であり、又、文化的優秀者が出て來るのであります。それは文化的に言つても、社會的に言つても、或は又人類學的に言つてもさういふことになるだらうと思ひますけれども、統治國たるスペインの立場から、即ち本國と植民地、或は統治國、大帝國を構成してゆく中心の民族の方面から見ると、結局フィリッピンの混血兒が低級となり、その混血兒の比島がスペインから離れてゆくことになるのであります。

ところがこれに反してイギリス人、廣く、アングロサクソンは混血を決して作らないといふ方針で従來植民地經營をして來た。これはアングロサクソンの人種的な差別的な優越感からも由來し、又、政治的な願慮からも來て居ると思はれる。印度にしてもビルマにしても、世界のどこでもイ

ギリス人は混血兒を作らない。出來るだけ之を避ける。

兎も角統治民族と被統治民族が文化接觸をいたしました場合にそこで結婚が起るといふと、日本人が内南洋で嘗てサイパンなりパラオなりでも經驗済みなのであります。原住民の女の方は偉い統治民族の男と結婚するといふことになれば喜ぶ譯で、日本に歸る時に連れて行つて貰ふとは決して思はないのであります。従來、日本人は細君を連れて南へ行くといふことを獎勵して居りませんから、どうしてもさういふ結果にならざるを得ない状態の下では、兎に角混血が行はれるのであります。さうすると原住民の仲間から見れば、結婚をしたといふことになり、假令日本へ歸る時には連れて行つて貰へないとしても、その社會では結婚でありますから、原住民たちがその日本人を自分の方の仲間だといふ風に感ずるのは當然であります。さうすると統治者としての日本人と被統治者としての原住民との差別といふものはなくなつてしまふ譯であります。さういふ點が統治上大きな考ふべき點であると同時に、かなり起り勝な問題であるだけに、根本方針としても、具體的な問題としても考慮してゆくべき問題である。

既に申した如くアングロサクソンは混血政策は絶対に反對して來たのであります。オランダの場合にしても始めは獎勵いたしました。が後になつてからは放任的と申しますか、獎勵をした譯でもな

いといふのが約二十萬人ジャワに生じた譯であります。併し、オランダのやうな小さい國があれば大きい熱帯植民地を持つた場合に於ては、文化を入れこむ媒介者として斯の如き混血兒を利用してゆくといふこともある意味で賢明であつたかも知れないのであります。併し今度の戦争に依つて立證されました通り、二十萬人の混血兒の中で本當にオランダの爲に戦ふなどといふやうなものは——オランダ人でさへもさういふのは少ないのでありますから、所謂混血兒がオランダを祖國とするといふやうな觀念は持つて居らない。結局混血兒といふものはドツチ付かずで、統治者側でもなければ原住民側でもない、従つて兩方に恨まれもすると、混血自身が兩方に對して嫉みなり不安なりを持つといふやうに、さういふ環境が出来てくるといふ點に極めて社會的な面倒臭い問題があるのであります。

今日本の立場からこの混血問題を取扱ふ場合に於ては、やはり混血といふものは、ドツチ付かずで兩方から憎まれ、嫉まれ、又兩方に對して混血兒は其合の悪い仲間の環境を作つてゆくことになるといふ點が、日本の文化をいれてゆくといふ場合に決して頼みにならない。一寸考へるとさういふ仲間の人間が居りますと文化をいれてゆく上に於てそれが媒介者となつていゝやうに思へますし、日本民族の一員が殖えるから却つて喜ぶべきであるといふ議論もないのであります。

嘗て私共が南へ参りました時でも現地で大勢人を使つて居られる方々が、日本人を殖やす爲には原住民との結婚を奨励すべきだといふやうに言つて居りました。

ダバオは日本人の多い所ではありますが、そこで國民學校を參觀いたしましたも相當數の混血がゐるのを見ましたし、セレベスでも相當多いやうに見受けました。それで非常に大事な問題だと痛感した譯であります。併しどうも媒介者として見たり、日本人の延長にはならないやうに思ふのであります。サイパン、パラオに於ては占領當時海軍は混血政策は絶対にいかぬといふことを方針として執つた歴史もあるのであります。社會的に之を考へてみると、この問題を扱ひます場合には二通りの段階を見ないといけないのであります。非常に卑しい女との結婚の問題と、さうでない社會上地位のある相當教育のある女との場合とではやはり違ひますし、その混血兒の社會的地位なり教育などからも影響が來るので、混血兒一般とか結婚一般といふことを一概には言へないのであります。人類學的な體質の問題よりも教育による政治意識の問題が重要である。

その點現地では指導者が餘程考慮して舵を取つてゆく必要がありますが、唯根本方針として混血に關する意見をたてるといふことになれば、これは絶對的に純日本民族そのものを殖やしてゆくといふことが南に對して吾々が採るべき方針であつて、混血兒を殖やしてゆくといふことに依つて、

日本民族を補給しようといふやうなことは、色々の歴史上の事例に徴しましたが、又人類學的にも社會的にも文化的にも研究を要すべき問題で、斷定を直ちに下すといふのも早計でありますけれども、吾々が考へました結論としては、混血兒は避けた方がいゝと考へるのであります。

今は南洋進出に於ては船もなく又嚴選主義の時代であります。將來はもつと／＼／＼出て行かなければならない。スマトラとかミンダナオなどは熱帯とはいひながら氣候も日本人には適しますし、野菜や米も出来る所でありますから、中小工業者の轉廢業の問題に關聯して日本人が大量的に出てゆかなければならないと思ふのでありますが、根本方針としては日本の文化を推進してゆく場合に、どうしても男ばかりではいけないので、語り混血を惹き起すといふことも結局男だけが行つたからなのであります。

嘗て所謂慶長、徳川の鎖國迄、山田長政を始めとして大勢日本人が南洋へ進出いたしました。アポンのあんな所まで行つて居りますが、あれだけ優秀な日本人の跡方もなくなつてしまつたといふことは結局女が一人も一緒に行かなかつたといふことに——無論鎖國政策が根本の原因でありますけれども、今の民族政策からいひますと、或は日本文化の海外發展といふことを回顧して見ますと、結局婦人が参りませんでしたから原住民と結婚してしまふ。従來は教育も充分でない。従つて子

供は原住民になつてしまつて何處にどうなつたか分らないといふやうな結果になつて居る點から考へましても、今後の日本人の南洋發展にはなるべく婦人を一人でも多く送り出すことに依つて、高潔な日本文化は兎も角として、生活文化としての日本文化が南洋に入りこんで原住民を指導するこゝとが出来ゝ。又別の方面からいつても現在でも現地にある官吏とか會社員とか或はその他の方々は、一年とか二年とか何となく腰が落着かないといふのが現状であります。それは妻を連れてゆかないから起ることが多い。

永年の内南洋の例でも何時か日本へ歸りたい／＼と思つてゐる。私がサイパンに行つた時にお寺へ参りました。ところが墓がない。たま／＼幾つかありますと、これは來年自分が日本へ歸ります時に持つてゆくといふので假の墓になつて居りまして、結局お墓は假の墓ばかりで本當の墓はない。全部本國に歸つて來てしまふといふ譯で、五年、十年、もつと永く一生を南洋へ捧げるといふ氣持でなしに、昔の所謂出稼ぎ根性で一儲けして來る位の一時的な氣持でのみ行きますから、日本文化が根強く入つてゆかないし、又指導力にならない。しからばやはり永續的に日本文化を入れて、爲には婦人がゆくと、いふことが非常に大事な事柄でありまして、さうなれば一生ゐてもいゝといふ方もドン／＼出て來るであらう。

直接文化の問題でないやうにみえますが、日本の文化を入れこむ、移し植えてゆくといふことに於ては婦人の渡航といふことが相當大きい鍵の一つになると考へましたので、この點を加へた次第であります。

回教

回教圈研究所長 大久保幸次

1. 大東亞圈の諸宗教
2. 回教の大東亞への弘通
3. 西洋人の東侵とキリスト教の傳來
4. 回教の特性
5. 回教の普遍性と畫一性
6. 回教圈の現状とわれらの立場

昭和十九年一月二十五日印刷
昭和十九年二月一日發行(三,〇〇〇部)

(認許會出版)
330412

大東亞民族誌
定價 貳圓七拾錢
特別行爲稅 拾八錢
和書稅
賣價 貳圓八拾八錢

編者 東亞經濟懇談會

發行者 增永善吉
東京都麹町區有樂町二ノ四

印刷者 小坂孟
東京都牛久區市谷加賀町一ノ三

印刷所(東京) 大日本印刷株式會社
東京都麹町區有樂町二ノ四

發行所 株式會社 鱒書房

電話銀座(67)二四六七・五二八一・三
振替口座東京一四七一・二九番
會員番號一三一五二一番

元給配
日本出版配給株式會社
東京都神田區淡路町二ノ九

★鱒書房發行出版物中、萬一落丁・亂丁等の品がありましたら節は現品引換へに御取換申上げます。